

# アディショナルタイムをどう語るのか

富永 哲志 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)  
指導教員 豊田 則成

キーワード：アディショナルタイム 予感 過剰適応サイクル

## 1. 緒言

本研究は、「サッカー選手はアディショナルタイムをどう語るのか」というリサーチクエスチョン(Research Question:以下 RQ と称す)を設定し、質的にアプローチした。そこでは、サッカー選手のアディショナルタイムについての語りから発展継承可能で有益な仮説的知見を導き出すことを目的とした。

## 2. 方法

インフォーマント (Informant: 調査対象者:以下 Inf.と称す) は、アディショナルタイムに、スコアが動いた試合を経験したことのあるサッカー選手 9 名 (19 歳~22 歳, 男性) であった。インタビューマニュアルを基に、一人あたり 1 時間程度(1 対 1 形式)の半構造化インタビューを実施した。分析方法については、質的研究方法の代表的手法であるグラウンデッド・セオリー・アプローチ(Grounded Theory Approach:以下 GTA)を用いて行った。

## 3. 結果と考察

本研究は、上記の RQ の下、質的にアプローチした結果、「サッカー選手はアディショナルタイムに入り、状況を把握しようとする中で、何か波乱が起こることを予感してしまう。それが故に、流れを評価し、状況に困惑し、気持ちが先走るといった過剰適応サイクルに陥ってしまい、結局、その結果を意味づけざるを得ないものとして語る」という仮説的知見が導き出された。Fig.1 には「アディショナルタイムでスコアが動く時の心のメカニズム」を示した。

## 4. まとめ

サッカー選手はアディショナルタイムで、波乱を予感してしまうが故に、一つ一つのプレイに過剰適応を生じ、普段通りのプレイができない状態に陥ってしまうことが確認された。すなわち、サッカー選手は、この時間帯に無自覚的なアンコントロールを体験しているといえるのではないだろうか。

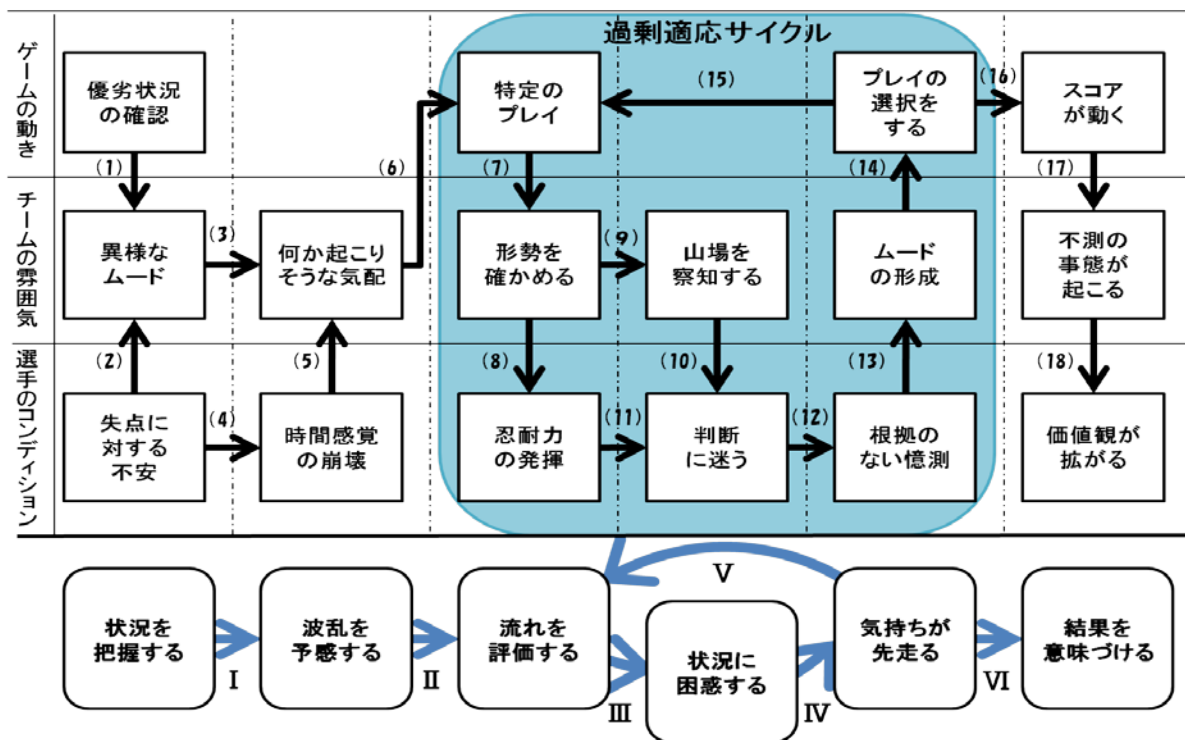


Fig.1: アディショナルタイムでスコアが動く時の心のメカニズム